

# 三重県のシンボル

三重県は、海や山の豊かな自然に恵まれています。その三重県を代表する三重県のシンボルは、公募による審査、選定委員会による審査、県民投票等によって決定されました。

## 県章

(昭和39年4月20日制定)

三重県の「み」を力強く雄飛的にデザインしたもので、世界的に有名な真珠養殖も象徴しています。また、右上がりになっている字は、県が飛躍することを表しています。



## 県民歌

(昭和39年4月20日制定)

県民歌は、県民が気軽に県民として誇りをもって歌える、軽快で健康的なものをということで、形式、応募資格の制限を設けず、広く全国に募集し、全国385点の応募作品の中から入選した作品の一部を修正して決定したものです。

なお、作曲は東京の作曲家飯田信夫氏に依頼したものです。



## [県民鳥獣]カモシカ

(昭和39年11月24日指定)

ヤギに似た姿をしていますが、ウシ科に属する反芻獣で、雌雄共に双角を持っています。高山地域の森林や岩山、断崖地などに住み、国の特別天然記念物に指定されています。



(※反芻・・・一度飲み下した食物を口の中に戻し、かみなおして再び飲み込むこと。)

## [県の花]ハナショウブ

(昭和44年9月22日指定)

花軸は直立して分岐しないのが特徴です。花は初夏に咲き、色は白・紫・薄紅うすべになど。桑名市の九華公園や明和町の斎王の森、伊勢神宮の勾玉池まがたまなどで見られます。



## [県の木]神宮スギ

(昭和41年10月20日指定)

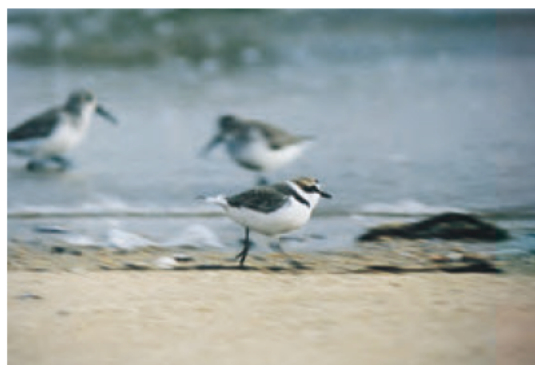
伊勢神宮神域林の主林木。昔から千枝せんしのスギ、ホコスギなどの名で多くの詩歌に読まれました。伊勢神宮や大紀町の滝原宮には樹高40メートル以上の巨木が生い茂っています。



## [県の鳥]シロチドリ

(昭和47年6月20日指定)

春夏はペアで、秋冬は群れをなして行動します。木曾岬町から伊勢市二見町にかけての海岸で見られますが、近年、その数が減少しつつあり、保護の必要が叫ばれています。



## [県のさかな]伊勢えび

(平成2年11月2日指定)

茨城県以南の太平洋沿岸に多く分布しています。三重県では主に志摩半島地域で漁獲され、2007(平成19)年の漁獲量は全国1位です。

